



署名した協定書を掲げる吉川支店長(左)と法官理事長

スポーツ、健康事業展開 光星学院と大塚製薬 協定

平 年5月28日

八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)と大塚製薬仙台支店(吉川佳克支店長)は28日、スポーツおよび健康振興に関する包括協定を締結した。両者は協力し、同法人の幼稚園、高校、大学や地域でのスポーツ・健康関連事業を展開する。同社は全国の学校法人などと協定を結んでおり、光星学院は本県初、全国39例目になるといふ。

健康増進とスポーツ振興、熱中症対策、水分や栄養摂取、食育と健康づくり、災害対策など7項目。詳細は今後詰めるが、トップアスリートの講演会、幼児や児童・生徒と保護者が対象の生活習慣病予防、熱中症対策の研究などを進める。光星学院が力を入れる防災士養成や「子ども食堂」運営でも協力するといふ。

協定締結式では吉川支店長と法官理事長が協定書に署名し交換した。吉川支店

長は「医薬品メーカーのノウハウを光星学院に評価してもらった。連携して社会貢献活動を進める」、法官

理事長は「大塚製薬の科学的データとわれわれの教育施設を活用し、積極的に地域貢献したい」と語った。

同社は学校法人のほか全国の自治体とも同様の協定締結を進めており、本県とは2016年に「県健やか力向上企業等連携協定」を結んでいる。

(若松清巳)